令和8年度古賀市男女共同参画計画実施状況報告書（令和7年度事業）　点検・評価（案）について

資料　１－２

基本目標	基本方向		掲載ページ
Ⅰ　ジェンダー平等の意識向上	1	ジェンダー平等の意識の形成	1～23
	2	ジェンダー平等教育の促進、充実	

学校や保育所等と連携したジェンダー平等教育の成果を広げるとともに、講演会・学習会・広報等による啓発を継続・充実し、若い世代を含む幅広い層への周知や参加促進を工夫しながら、ジェンダー平等への理解と意識の向上を図ることが重要である。

○ 西小学校の出前授業で、性の多様性について、実践前と実践後を比較すると、性の多様性への理解が進んでいるのが分かる。ぜひ、他の学校への拡大を推進してほしい。
○ 古賀西小学校から依頼を受けて出前講座を行ったという事で、今後は計画にもある将来的には全ての学校への展開と講師講座を期待したい。
○ 広報の広聴委員をしているが、男女共同参画についての読者の感想の中に、考えさせられたなどの感想が述べられている。
○ 新規採用職員の基礎研修で「男女共同参画の基礎」はほとんど皆理解出来たという結果だったのを維持しつつ更に理解度を高めていただきたい。
○ [redacted]のインターネットによる被害は有名な話であり、いつ自分が当事者になってもおかしくない身近なことで、関心を寄せる人は多いはずである。せっかくの講演を少人数しか呼べないのは、講師の方にも残念な思いをさせることになるため、より多くの人に参加してもらえるよう、人集めに努力してほしい。
○ （メディアリテラシーの）学習会を学年別に生徒と保護者を対象に実施しているので、3か年の積み重ねにより、保護者と子どもが一緒に考えるとよい機会、啓発になっていると考える。
○ 保育所、学校教育におけるジェンダー平等教育の推進は、古賀市では、進んでいると思います。保育所、学校と人権センターが連携した実践を今後も古賀市の特徴である実践として推進してください。
○ 児童センターでの掲示物に、目につきやすい様工夫をしてジェンダー平等を取り入れる事は、自然に親子に認識されそうな点で、良いと思う。
○ ジェンダー平等学習会を古賀市の全中学校の全学年、参観日や学校開放日に合わせて実施出来た事は、生徒だけでなく保護者への啓発も同時に出来た事を評価したいです。今後も、更に多くの保護者が自然に参加出来る様な形で継続していただきたいです。
○ 男女共同参画、ジェンダー平等、DV関連の図書、視聴覚資料の提供が312冊と多くて有難いことです。とても大事な基本的な部分なので、毎年継続をお願いしたいです。
○ 一行詩の応募が増えた。特に高校生の作品が317件にも上ったのは、人権センターと教育委員会、学校の3者の連携ができているからだと考える。今後は、福岡女学院看護大学への取組もぜひ進めてほしい。
○ 男女共同参画フォーラムの1回目に参加しました。一行詩や輝きKOGAびとの表彰は、市民の皆さんのジェンダー平等意識の啓発に大きく貢献していると考えます。応募した人、参加した人が啓発の起点になると考えます。是非、継続してください。大学生の応募が増えるとよい。男女共同参画フォーラム、セミナーとも、30代、40代、20代の参加が少ないが、3人、6人、1人など、少数でも参加しているので、前向きに考えていきたい。男女共同参画社会の先進国であるヨーロッパなどの社会の仕組みを講演で聴きたい。
○ 初めてこのような資料を目にして素直にさまざまな活動をしているなと感心しました。[redacted]氏等著名人の講演は集客の面からも効果的と感じました。
○ 当基本目標については、啓発が大事であると思います。その中で啓発への参加者が伸び悩みかと、 事務局ががんばっていただいていると思いますが。 R13年度目標の1000人を達成するには、リーパス大ホールでのイベントが欠かせないと思います。人権尊重週間の市民のつどいが、あらゆる差別を対象にしてますが、ジェンダー平等をとりあげるよう働きかけてはいかがか。

基本目標	基本方向		掲載ページ
Ⅱ　あらゆる分野における男女共同参画の実現	1	施策・方針決定過程への女性参画の拡大	24～57
	2	就労の場における男女共同参画と女性活躍の促進	
	3	家庭生活、地域活動等における男女共同参画の促進	
	4	国際的視野に立った男女共同参画の促進	

審議会等における女性参画の成果を踏まえ、施策・方針決定や就労、地域活動等への女性の更なる参画を進めるとともに、男女がともに担う子育てや地域活動、国際的視野を広げる取組を継続・充実していくことが重要である。

○ 審議委員等の男女比目標を概ね50:50とし、女性委員のいない審議会等を解消する事に於てここ3年ほぼ達成が認められる点で、毎年の努力の成果がうかがえます。毎年、努力で達成され、女性人材リストも増加する事を願います。
○ 女性学級長が60.8%に達している。地域で進んでいるのが分かる。その理由が明らかになればと考える。今後の推進のカギではないだろうか。
○ 分館教養学級長の女性の割合が昨年度は全23学級中14人（60.8%）で年々増えてきているので、人材養成支援の継続を願います。
○ 自治会長の女性構成率が低い。私も地域で個人的に呼びかけているが、「対象の女性が断る」「能力は持っているが引き受けない」など理由が様々あるのだろう。壁は高く感じる。
○ 管理的地位にある役職における女性職員の割合は、前年度25.5%(+5.6%）と、まだ低いが上がってはきている。向上には家庭内での男性の協力が不可欠なので先にそこが変わらない事には、女性の負担が増えるだけなので、難しいと思う。
○ 「心と体をリセット、ハーブティーで・・・」は、とてもいい企画だと思うがターゲットの年令と全体の参加人数も低かった事が残念に思うので、日程の曜日や時間を選び、又、子ども預り等取り入れても良いと思う。
○ 事務職への求職ニーズが多い一方で、企業の求人は、工場等の現場作業員が多くを占めるとあるのは、古賀市は工場が沢山あって、そうなると思うので、近郊からのリストアップをあたっていただきたいと思う。
○ 女性起業を支援するためのセミナーは、参加者が多く、女性比率も多く、更に充実を期待します。
○ 女性新規就農者への活動支援は、当事者にとって、心強い取り組みと言えるので、人数が少なくても継続して欲しいが、それをやってる事のアピールは先に大きくやって欲しい。
○ パパ交流広場年12回開催は、父親の育児参加への大きな助けになると思う。
○ パパ交流広場で、66名中、男性38人の参加は素晴らしい。男女協働で子育てをすすめるよい交流になったのではないか。
○ 妊婦への支援は希望される型式で継続され、力になって頂きたいと思う。
○ 男女がともに参画する育児のための相談機能の充実で、家庭訪問をし、訪問数が328人にのぼったのは、初産婦、経産婦も含むとのこと、きめ細かな支援が行き届いている。
○ 地域包括支援センターへの相談件数が増加している。センターへの認知度が拡がり相談機能として活性化しているのは、早期支援にもなり、これからますます必要だと思う。
○ 国際理解のための機会の提供は、古賀市の外国人人口が1000人を超える状況では、必要な取り組みだと考える。古賀市にとって外国人の労働者は欠かせない大切な人たちである。小中学校でも、地域でも、子どもも大人も交流しあうコミュニティになってほしい。そのための、機会の提供は欠かせない。多文化ミニ運動会や日本語まつり、ママパパクラスへの市民の参加が気軽に誰でもできるような啓発が欲しい。普通の市民でも参加していいのか迷っている人もいるのではないだろうか。
○ ジェンダーギャップ指数第1位のアイスランドと日本の比較は分かりやすい講義で、人々の関心度も増し、効果大と思う。
○ 国際的視野を学ぶ集いへの参加者を多く募るため、興味が湧く楽しそうなイベント名にすると良いかもです。
○ 各分野において女性の参加についての取り組みが実践されていると感じました。

基本目標	基本方向		掲載ページ
Ⅲ　男女の自立と社会参画に向けた環境整備	1	ワーク・ライフ・バランスの確立と社会参画への支援	58～89
	2	生涯を通じた健康管理への支援	

保育・学童等の子育て支援や健康・相談支援の充実を評価しつつ、男女がともに自立し安心して社会参加できるよう、多様なニーズに応じた支援の質の向上や、誰もが利用・参加しやすい環境づくりを進めることが重要である。

○ 保育定員を10人増加できたのは成果です。
○ 学童保育所の役割が大きくなってきている。人的、施設の充実が必須である。また、指導員の確保だけではなく、指導員の子どもに寄り添う質の向上も大切である。
○ 年々増加する学童保育所利用者のニーズに合わせ、定員を増やしながら待機児童を出さずに、全ての児童を受け入れた事は、その関係者の努力を評価できる。 共働き世帯増加で、今後も需要は上がるとみられるため、保育の質を下げる事なく適した指導員の確保や児童の育成等が出来る様、支援を継続して頂きたい。
○ 「古賀のわが社自慢」の募集で該当する事業所が少ないと見受けられるのは淋しいと感じる。声を上げてくる所が増えてくればいいのだが……と思う。
○ 困っている世帯に、手を差し伸べている古賀市の福祉行政は継続してほしい。
○ ひとり親家庭相談は女性と子どもの世帯が多く占めている様なので、男性と子どもの世帯も相談しやすい工夫が必要かと思う。
○ リーパスカレッジ高齢者向け講座は大変良い企画と思うが、男性の参加が少ない結果となった。特にネイル等、美容関係は、昭和の男性は抵抗あると思う。
○ 古賀市地域サポートセンターにおいての活動で、いろいろとがんばっていらっしゃる具体内容をいくつか上げられたらもっとピンと来るのかなと思いました。
○ ウォーキングを通した健康づくりの啓発では、参加者が64人中、36人が70代で古賀市の高齢者は元気だなと喜ばしい気持ちになりました。
○ さまざまな会議開催の中でヒアリングで生の声を聞かれたり情報共有する事で、次のステップへの土台を作られていると思う。日常的なDV、モラハラ、オーバードーズをくい止める為の計画は問題がシビアなだけに、がんばっていただきたいです。
○ 母子手帳にサポートプランも併せて交付は良いと思うので寄り添い支援を願います。
○ 乳幼児健康診査状況が100%近いのは、啓発の効果だと思う。古賀市は、乳幼児子育て支援が充実していると思います。
○ 児童センターの存在は他に居場所のない子どもや若者にとってとても大切な場所なので、安心して過ごせる様に充実させる為に必要な支援を続けていただきたい。
○ 国際女性デーは、毎年ぜひ派手にやっていただいて、女性が活躍する事の応援となるように、活用して、自然と女性進出につなげられたらいいと思います。冊子は効果ありますね。
○ 待機児童が早期に解消され、若い子育て世代のサポートが進むよう期待しています。

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅳ　あらゆる暴力の根絶	1　あらゆる暴力の根絶と被害者支援	90～104

あらゆる暴力の根絶に向け、研修や啓発、相談・支援等の取組を継続するとともに、関係課が連携して情報共有を図り、若い世代を含む幅広い層への暴力の予防や加害防止に向けた啓発、被害者支援の充実を進めることが重要である。

○ 各部に於て「こが女性ホットライン」のカードを作成して、公共の場所に置いたり、ティッシュにはさんで配ったりは、今後も続けて欲しい。
○ 職場でのハラスメントを未然防止のための対策として、新任の課長や係長の研修でその学習等があるのは、とても有効だと思う。
○ 性犯罪はなかなかなくならない為、できるだけ、そういう被害者にならないよう、加害者を出さないよう常日頃の注意喚起も必要だと思った。
○ DV、デートDV、ハラスメントと、様々な暴力への取り組みができていると思います。
○ 古賀市は、あらゆる暴力の根絶に向けた各職場における研修、市民向けの啓発、相談機能が充実している。今後も様々な課が連携し、情報を共有しながら、暴力の防止、相談、救済、啓発を継続してほしい。
○ どのような背景や事情があろうとも暴力は許されないことを前提に、特に弱者への暴力根絶に対した取り組みを特に若い世代へ発信してほしい。

基本目標	基本方向	掲載ページ
Ⅴ　性別にとらわれない多様な生き方の尊重	1　性の多様性への理解促進	105～109

性の多様性への理解を促進するため、幼少期からの学びや学校での教育、交流・啓発等の取組を継続・充実するとともに、若い世代から大人世代まで幅広く理解を広げ、誰もが互いを尊重し、自分らしく生きられる環境づくりを進めることが重要である。

○ 各学校での多様性を認めあう意識啓発推進で、古賀西小学校で出前講座を実施したが、学校では教員の専門的な知識が、人権センターの職員ほどないので、効果があると思われる。ぜひ、各学校への出前講座が増加すればと考える。西小学校での実践前と実践後の意識の変化は貴重である。
○ 市役所に掲げるレインボーフラッグやパネル展は、市民にとって関心を高めるいい取り組みだと思う。
○ 性的マイノリティ交流会は、3か月に1回、毎回5～6名の参加とのことだが、もっと参加者が増えるとよい。また、「性的マイノリティ交流会」の「性的」の部分は、違う表現でもよいのではないかと思う。プライド月間についても、気付いたときには終わっていて見られないことがあるため、年1回だけでなく、もう1回程度、規模を小さくした啓発の機会があってもよいのではないか。
○ 交流会の開催など、他の市町村に先駆けた取り組みができていると思います。
○ 絵本や紙芝居、人形遊びやままごとなどで、自然な形で多様性を学ぶ事は受け入れやすくて良いと思いました。
○ 保育所で絵本や紙芝居の教材を使用した性の多様性についての実践は、小さい頃からの積み重ねが大切なので、今後も小学校とも連携して継続してほしい。
○ パートナーシップ宣誓、ファミリーシップ宣誓の受けつけは、宣誓カップルが1組あった。自分らしく生きることの保障が施策により、達成できるのは施策の効果。
○ 宣誓制度は、古賀市の先進的な取り組みと取り上げられたが、その後、時間の経過と共に周知が薄くならないように、継続的に啓発活動を多様な手法で展開してほしい。
○ 性の多様性への理解促進への取り組みは今後も推進するべきものと思うが、お互いの性別を尊重しあう社会になるような取り組みも必要と感じた。
○ 市の積極的な取り組みにより、市民の特に若い世代では男女共同参画や多様性への理解が進んでいることが、一行詩の応募作品から読み取れる。
○ 大人（昭和）世代へのアプローチを強化していく必要があると思う。

全体について
○ 事業の成果や達成状況を数値等で分かりやすく示し、評価や課題を次年度の取組につなげるとともに、若い世代を含む幅広い層への参加促進や庁内の推進体制の充実を図り、計画的・継続的に男女共同参画を推進することが重要である。
○ イベント等への参加者数や参加後アンケートの集計結果、コンテストへの応募数等、多くの報告書において事業の成果を数値で示されていて、わかりやすかった。目標の数値化により、達成度の評価や次年度の目標設定が容易になり、継続的な改善が可能となるので、今後も引き続き数値化されると良いと思う。
○ 今回これをやるにあたって、実施状況報告書が見易くて良かったです。 主な事業内容と事業の成果・評価・課題が別にあり、又、次の事業計画として、方向性と計画が別にあったのも書かれてる当事者の方々も、何を目標としてこれからどうしたらいいのかはっきりしたでしょうし、自分もよくわかりました。後は、その計画がどれだけやれたかの結果で次の取り組みが決まるという大事なところです。古賀市の向上目指して、皆さんに、今後も頑張って頂きたいです。有難うございます。
○ 事務局からみた令和7年度事業を終えての進捗状況の評価及び課題を教えて欲しい。又、当計画を達成するためには、市役所内の推進体制が機能することが大事と考えます。担当におかれましては、上司指示の「やらされ感」、前年度のコピペしての記載等が無いことを願います。また、職員として、「古賀市男女平等をめざす基本条例」の 理念を理解した上で、事業の推進をお願いしたい。